

東京都退職校長会



会報

発行所 東京都退職校長会
発行者 多田 丈夫

〒113-0034 文京区湯島4-12-3 日公連鈴木ビル5F
電話 03-5814-5615

東京都退職校長会ホームページ <http://www15.ocn.ne.jp/~totaikou/>

△晴れやかな先輩の言葉

去る5月1日、厳かに新しい年、令和元年が幕を開けました。我々は、新たな令和の時代に夢を託し、共に豊かに生き、平和を希求していきたいと思っています。「母は102歳まで自宅で生き、私たちのモデルでした。私も遺伝子を受け継いでいるのでしょ



東京都退職校長会 会長 多田 丈夫

ただ、この組織のため一途に進む
—命脈を継ぐ人は誰か—

しく生き抜いている方々がいます。諸先輩の生きる決意に勇気百倍。今年も訪ねた支部総会のエネルギーに圧倒されました。さて、理事総会も終わり、理事3割が人心一新。いよいよ令和元年の本会の諸活動が力強く始動します。確かな実りある業績と魅力ある本会の歩みを約束します。△ただひたすら一本道を走る

魂を揺さぶり、その自信を確信に変え、結束して新しい会則に拘り、「全員加入」のアクセルを踏み続けます。そして、才知溢れる会員の底力を信じ、執拗に命脈を未来に繋ぎます。△看過できない気になること

東京都の「私立高校授業料無償化」が本格化しました。今年、その影響で多くの都立高校で定員割れ現象が生じ、今、改めて公教育の役割と都立高校の魅力化が問われています。すぐに、義務教育にも及んでくる課題。一言で言えば「都公立学校

会者が56名と、昨年の入会者数をはるかに超え、待望の光が差し込んでいます。我々は、退職校長全員加入への一本道をただひたすら走ります。全員で籠を担ぐことを喜び、再興の哲学を持つ本部プロジェクトチームを司令塔に「生き残り大作戦」を展開します。後戻りは愚行。改革は、特別なことではなく、企業でいえば倒産寸前の組織に鋭いメスを入れたにすぎません。この先、同じ轍を踏むなどの会員の声が響きます。さて、〈数は力〉。会員約三〇〇〇名の

の教育危機」であり、東京都に貢献した我々にとっても看過できない課題です。さて、本会は「他に譲れない固有の人格を持つ組織」です。その存在感を一層高め、点（本部）と線（支部）と面（全会員・居場所）のホットラインをさらに強化します。「退職後いろいろな会に入ったがこの会が最高だ」と、ある支部会員の声に救われます。庭の紫陽花が美しい。「…希望ある限り若く、失望と共に老い朽ちる…」とのサミエル・ウルマンの詩を反芻。何はともあれ、明るく、元気で、楽しく。

主な記事

- | | |
|---------------|--------------------|
| P1 巻頭言 会長挨拶 | P9 春の叙勲・春の褒章 |
| P2 第66回定期総会報告 | 高齢者叙勲受章会員 |
| P4 長寿会員一覧 | 応募コーナー |
| P5 功労会員・本部役員 | P10 第1回会員研修会 |
| 支部長 | P11 教育フォーラム2019 |
| P6 平成30年度決算書 | 報告 |
| P7 令和元年度事業計画 | P13 新入会員の声 |
| P8 令和元年度予算書 | P14 支部だより |
| | P16 物故者、湯島の動静、編集後記 |

第六十六回総会報告

期日 令和元年5月13日
会場 東京ガーデンパレス

第六十六回定期総会が盛会のうちに終了することができました。

一 開会のことば

司会 宇津木順一副会長

中岡啓子副会長

二 国歌斉唱

指揮 宮下 洋

(武蔵野・三鷹)

三 綱領唱和

中岡啓子副会長

四 物故会員に黙祷

30年度物故会員 一三三名

五 多田丈夫会長挨拶(要旨)

ここに、第66回定期総会を開催しましたところ、お忙しい中、東京都教育委員会教育監 宇田 剛様をはじめ、多数のご来賓にご臨席賜り、誠に有難うございます。皆様には平素から本会の諸事業にご指導・ご支援いただき厚く御礼申し上げます。また、春と秋の叙勲、米寿・喜寿の榮譽に輝いた先生方、誠におめでとうございます。どうか、これからもお元気で生き甲斐づくりに力を尽く



多田 丈夫会長 挨拶

されることを祈念しております。

去る5月1日、厳かに新しい年、令和元年が幕を開けました。我々は、新たな令和の時代に夢を託し、共に豊かに生き、平和を希求していきたいと思ひます。さて、今、日本は時代の転換点に立っています。AI技術の進歩で人工知能が人間を支配するだろう「ソサエティ5.0の時代」の到来が叫ばれています。しかし、どんなに時代が変わろうと求められる力は、教育の質の向上にあると考えます。その意味からも最近、東京都が策定した「校長・副校長・及び教員としての資質向上に関する指標」にも大変関心があります。この国際都市東京の教育を支える教育環境の整備に鋭い眼差しを向けていきたいと思ひます。さて、待望の東京オリ・パラは一年余に迫ってきました。開催都市東京が28年度から実践しているオリンピック教育の《学ぶ、観る、する、支える》の4つのアクションプラン教育の成果に期待したいと思ひます。話題は変わりますが、昨年の総会で会員資格を現職校長に付与した「全員加入」への会則改正は歴史的快挙でした。一年を経過し、5月1日時点で56名の入会届がありました。新しい会則は、着々と確かな歩みを始めています。42支部の共同努力に感謝いたします。我々は、さらに、会員一人一人のマイノリティ(固

定観念)の改革に力を注ぎ「会員増強・全員加入への一本道」をさらに走り続けます。江戸時代後期、借金だらけの米沢藩を立て直した第9代藩主の上杉鷹山が家臣に教訓として与えた「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の成さぬなりけり」との言葉に学び、共に手を携え全員加入に向かつて心を一つにします。さて、今年も本部は多忙を極めます。総会後の5/28に開催される「第4回教育フォーラム東京・2019」では「新しい会則の意味する全員加入への道を考える」をテーマにご苦

勞された会員とトコトン話し合います。私は今、「蟻の思いも天に届く」の心境です。このフォーラムが支部間の共通理解、共通行動の固い誓いの場になればこの上ない喜びであります。「老いてますます壮なり」と言います。本年も会員の皆様がよく仲間と共に豊かな時を刻み、スクラムを組んで存亡の危機にブレーキをかけ、さらに、東京都退職校長会の存在感を高めようではありませんか。

結びに、今後ともご参会の皆様方とのWIN・WINの関係を堅持しつつ、皆様の一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。総会の挨拶とさせていただきます。

六 来賓祝辞(要旨)

・東京都教育庁

教育監 宇田 剛 様

東京都退職校長会の皆様には、日頃より、東京都教育委員会の様々な

施策に、御理解と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

東京都教育委員会は、これまで全ての子どもたちに基礎的・基本的な力を確実に育成し、生涯にわたって自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動し、より良く問題を解決する資質や能力の伸長を図ることを目的として、様々な取組を進めてまいりました。

その一つとして、学校が外部人材からの協力を得て、教育活動を一層充実できるよう、平成二十二年度から設置した「教育庁人材バンク」事業では、退職校長会の先生方にアドバイザーとして御就任いただいております。普及・広報活動や教職を目指す学生の登録促進についてお力添えをいただいております。さらに、人材バンクへの登録者を対象とする講座の開催にも御協力をいただいております。

教員の人材育成や部活動の在り方等、様々な課題に直面している現在、学校における学習指導や部活動の充実を図るために、引き続き、御支援



教育監 宇田 剛 様 挨拶

と御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

さらに、東京都教育委員会では、「学校における働き方改革推進プラン」を策定し、教員一人一人の心身の健康保持の実現と、誇りとやりがいをもって職務に従事できる環境を整備する取組をすすめているところです。

退職校長会の皆様には、校長としての御経験を踏まえ、様々な場面において、学校を支援していただくことがあるかと思ひます。今後とも、学校教育の質の維持向上のため、更なる御助力をいただきますようお願い申し上げます。

・全国連合退職校長会

会長 入子 祐三 様

令和元年度総会のご盛会をお祝い申し上げます。

さて、退職校長会として果たすべき役割りは山積しています。とりわけ「教員の働き方改革」「新学習指導要領」の実施をみすえての教職員の指導・運営体制の充実支援などを推進すべきと考えております。

一方来年は、「東京オリンピック」が開催されます。首都東京の退職校長会としての働き・支援が望まれることと存じます。意義ある参加を期待しております。改元早々に総会が開催されます手際の良さは、鮮やかであります。多田会長さんのもと、役員の皆さんの協力態勢の素晴らしさを感じます。

終りに、ご参会の皆様のご健勝と

東京都退職校長会の益々の充実発展をご祈念申し上げお祝いの言葉とさせていただきます。

・東京都公立小学校長会

副会長 野村 友彦 様

小学校においては、新学習指導要領の全面実施まで一年を切り、社会に開かれた教育課程の実現に向け、授業時数確保の方策や指導方法について工夫を重ねています。また、主体的・対話的で深い学びを視点とする授業改善やカリキュラム・マネジメント、特別支援教育の視点を取り入れた授業などに取り組んでいます。そして、新しい評価への対応も進めています。一方で、学校における働き方改革の推進も重要課題です。この状況に関連して、人材不足という課題もあります。教員採用選考の低倍率化は、東京都も同様ですが、夢をもって教職に就いた若い教員を大切に育て、この職のやりがいなどを発信して、今後の人材確保に努めた



総会参加者の様子

いと思ひます。東京都退職校長会の皆様には、様々な形で学校運営にお力をお貸しいただければ幸いです。

◎来賓紹介

- ・東京都教育庁 教育監 宇田 剛 様
- ・東京都教育庁人事企画担当 部長 黒田則明 様
- ・同 指導部管理課 課長 矢野克典 様
- ・同 指導部企画推進担当課 課長 市川 茂 様
- ・同 指導部特別支援教育指導課 課長 丹野哲也 様
- ・同 指導部教育計画担当課 課長 青海 正 様
- ・同 人事部職員課 課長代理 波多尚人 様
- ・多摩教育事務所指導課 課長 榎並隆博 様
- ・都教職員研修センター研修部 部長 石田 周 様
- ・都教職員研修センター研修部 企画課課長 鵜飼敦之 様
- ・都教職員研修センター研修部 教育開発課課長 堀田直樹 様
- ・東京都国公立幼稚園・こども園長会 会長 糸原淳子 様
- ・東京都公立小学校長会 副会長 野村友彦 様
- ・東京都中学校長会 会長 酒井 泰 様
- ・東京都公立高等学校長協会 事務局長 澤海富保 様
- ・全国連合退職校長会 会長 入子祐三 様

・東京都退職公務員連盟 会長 松本 衛 様

・日本教育公務員弘済会東京支部 事務局長 山浦敏行 様

・(株)東京都民互助会 代表取締役社長 長末真次 様

七 新会員紹介 57名の入会者 長寿会員紹介・祝い品贈呈

八 米寿代表挨拶 小林由衛 様

九 退任役員に感謝状・記念品贈呈 代表挨拶 石川秀治 様

十 栄誉会員紹介 議長選出

十一 榎庭清徳 荒川支部長 渡辺 弘 千葉南部支部長

十二 議事 平成30年度 会務報告 平成30年度 決算報告

1 同 同 監査報告

2 同 同 同

3 会則一部改正(案)

4 新役員(案)代表挨拶

5 令和元年度 事業計画(案)

6 令和元年度 予算(案)

7 顧問・参与の推戴(案)

8 その他

十三 議長解任・挨拶

十四 報告事項

十五 会歌斉唱 指揮 宮下 洋 (武蔵野・三鷹)

十六 閉会の言葉 桐谷澄男 副会長

◎総会終了後 会員研修会 ◎その後、会場を移しての懇親会 (会費七〇〇円) には、ご来賓、会員約一三〇名が参加した。

祝 ご長寿

(敬称略)

百八歳	1名	岸田 勝則 (大田)
百四歳	1名	守屋 章雄 (町田)
百三歳	1名	大正5年4月2日～大正6年4月1日出生 望月 英子 (神奈川)
百二歳	1名	大正6年4月2日～大正7年4月1日出生 須山 道德 (神奈川)
百一歳	3名	大正7年4月2日～大正8年4月1日出生 平井 明 (杉並) 平田 泰 (杉並) 松島 朝興 (武・三)
百 歳	1名	大正8年4月2日～大正9年4月1日出生 内藤 秀邦 (北)
白 寿	5名	大正9年4月2日～大正10年4月1日出生 大坂 泰 (板橋) 原 一男 (練馬) 長門 郡司 (千葉中) 中里富美雄 (埼玉) 三橋 竹蔵 (神奈川)

米寿 98名 昭和6年4月2日～昭和7年4月1日出生

堀越 一雄 (文京)	日吉 満幸 (文京)	水越 次男 (台東)	仲瀬 久廻 (江東)	赤坂 榮子 (江東)
阪本喜久雄 (江東)	加藤 信子 (品川)	青柳 健一 (品川)	吉田 一夫 (目黒)	原川 薫光 (目黒)
宮内 隆盛 (大田)	鈴木 信司 (大田)	小方 兵治 (大田)	辻 喜久子 (大田)	秋田 仁 (世田谷)
榎本 徹 (世田谷)	小泉 宣夫 (世田谷)	小林 由衛 (世田谷)	松澤 悦男 (世田谷)	金子 政雄 (世田谷)
中村 治行 (世田谷)	五十嵐邦享 (渋谷)	立石 昌 (中野)	赤松 秀夫 (中野)	池田 謙治 (中野)
藤谷 芳孝 (杉並)	田代 羊吉 (豊島)	鈴木 宏 (北)	島村 勝實 (北)	糸 幸子 (板橋)
井上 英夫 (板橋)	松野 彰夫 (板橋)	浦崎まり子 (板橋)	森田 倫正 (練馬)	樋 喆男 (練馬)
中村 澄雄 (練馬)	室賀 良一 (練馬)	内山 和巳 (練馬)	川本 通雄 (練馬)	高橋 昭一 (足立)
矢部 正子 (葛飾)	蓮池 守一 (八王子)	森川 亮 (八王子)	黒川 和夫 (八王子)	市塚 正史 (八王子)
長谷川義次 (八王子)	楠 元尾 (町田)	島田 勝弘 (町田)	眞柴 豊 (町田)	小松 朝夫 (町田)
清水 七郎 (日南)	竹田 英生 (日南)	伊藤 智章 (武・三)	八田 泰造 (武・三)	大迫 末司 (北・北)
奥村 登志 (北・北)	池口 忠重 (北・北)	高水 重雄 (北・中)	折茂 伸満 (府中)	貝塚 将 (府中)
山口 育朗 (調布)	柴田 武司 (北・西)	秋山 忠典 (北・西)	吉澤 利夫 (西多摩)	亀田 宏 (西多摩)
大山 博 (西多摩)	翠川 好道 (西多摩)	志村 秀男 (西多摩)	田野倉訓郎 (西多摩)	白木 義三 (大島)
鎗田 一宏 (千葉中)	鳴海 行男 (千葉中)	伊藤 優 (千葉中)	西郷 隆一 (千葉中)	佐藤五十雄 (千葉中)
田中 憲二 (千葉西)	高田 岩男 (千葉西)	坂井 幹 (千葉西)	藤木 三五 (千葉西)	永嶋 達夫 (千葉北)
長壁 一夫 (埼玉)	佐藤 邦男 (埼玉)	小川 一郎 (埼玉)	肥後 昌治 (埼玉)	岡留 理郎 (埼玉)
村上 完司 (埼玉)	芳賀 敬 (埼玉)	八巻 伸一 (埼玉)	町田 槌男 (埼玉)	矢部榮五郎 (埼玉)
石川 秀治 (神奈川)	前田 徹 (神奈川)	稲葉 勝造 (神奈川)	内海 静雄 (神奈川)	宮川 惟男 (神奈川)
高山 昌之 (神奈川)	原田 功 (神奈川)	佐々木フジ子 (神奈川)		

喜 寿 58名 昭和17年4月2日～昭和18年4月1日出生

甲野 恵美 (新宿)	金本 武光 (文京)	牛嶋 廣子 (文京)	猪又 和子 (江東)	町谷 幸子 (江東)
隈元 展弘 (大田)	鈴木 眞子 (世田谷)	矢内 一子 (世田谷)	碓井 恆夫 (世田谷)	堀内比佐子 (杉並)
塚越アサ子 (豊島)	米本 雅子 (荒川)	寺田 茂 (板橋)	高橋 公治 (板橋)	高波 宏光 (板橋)
加藤志乃婦 (練馬)	佐藤 輝雄 (葛飾)	奥村 信吾 (江戸川)	中谷 勝 (江戸川)	柳川 国平 (八王子)
榛葉 邦男 (八王子)	下野 秀雄 (八王子)	山口 久夫 (八王子)	平林 良雄 (町田)	村上 正博 (町田)
秋山 憲一 (日南)	井上 英昭 (日南)	平田 紘一 (日南)	穂積 輝子 (日南)	吉野美智子 (日南)
梅津 通郎 (武・三)	宮下 洋 (武・三)	谷垣十四雄 (北・北)	安藤 正邦 (府中)	前田 利親 (調布)
清水 照子 (北・西)	吉田 英也 (北・西)	黒田午左男 (北・西)	小澤 重雄 (西多摩)	奥富 靖宏 (西多摩)
山田 勝 (西多摩)	蛭田 正朝 (西多摩)	加藤 正昭 (西多摩)	塚野 征 (西多摩)	長島 清志 (千葉中)
富樫 英夫 (千葉中)	岩切 玲子 (千葉西)	藤井 信明 (千葉西)	千葉 康算 (千葉西)	高橋乃武彦 (千葉西)
西嶋 新吉 (千葉北)	森上 民子 (埼玉)	生越 詔二 (埼玉)	平岡 正明 (埼玉)	千田 捷熙 (埼玉)
植松 雅美 (神奈川)	服部 雅子 (神奈川)	二川 悦子 (地方)		

本会へのご功績を讃え感謝状を贈ります

功労会員（30年度以降の退任役員等）16名（敬称略）

副会長

中岡 啓子（足立）

評議員

瀬川 徹（千代田・中央）

春日井一郎（大田）

伊藤 智章（武蔵野・三鷹）

岡田みい子（府中）

秋山 忠典（北多摩西）

八田 洋彌（神奈川）

支部長

薩日内信一（目黒）

五十嵐邦享（渋谷）

田原 良敏（武蔵野・三鷹）

延藤 君雄（府中）

重野 和夫（北多摩西）

石川 秀治（神奈川）

理事

総務部 松澤 眞典（府中）

クラブ委員長

〔写真〕 小阪 順二（中野）

事務局長

三辻 陽夫（日南）

令和元年度 本部役員

会長

多田 丈夫（八王子）

副会長

宇津木順一（西多摩）

総務部担当

藤崎 武利（千葉南）

生涯学習担当

梅津 通郎（武蔵野・三鷹）

広報部担当

伊地 敦子（北多摩北）

企画調整部担当

守屋 龍男（北多摩西）

福利厚生部担当 部長兼任

桐谷 澄男（千葉南）

業務推進本部担当 会員増強プロジェクトチーム所管

総務部 庶務部長

会計部長

広報部長

生涯学習部長

企画調整部長

事務局長

監事

鈴木 一徳（北多摩西）

小久保正己（埼玉）

角田美枝子（品川）

齊藤 徳藏（千葉西）

高橋 利夫（江東）

山口 恒人（練馬）

桑原 利夫（江東）

前田 烈（千葉中）

佐治 恒孝（神奈川）

支部長

千代田・中央
港

岩谷 榮子
野々山 毅

豊
北

島

野村

清

府

中

広瀬

忠雄

孝

正勝

林和衛

久子

新文

宿

廣澤

義夫

荒

板

川

橋

庭

清徳

和子

喻

誠一

八郎

正幸

邦男

啓壽

武

墨

京

小林

博

秀夫

和子

森

俊一郎

名倉

俊一

毅

小田部

規矩男

鮎川

澄子

弘

良子

茂

武蔵野・三鷹

大世

田

谷

大沼

緒方

井口

北多摩北

北多摩中

鹿田

克己

府調

北多摩

西多摩

島

南

中

西

北

玉川

江品

目

黒

高橋

毅

小田部

規矩男

鮎川

澄子

弘

緒方

井口

茂

武蔵野・三鷹

北多摩北

北多摩中

鹿田

克己

府調

大世

田

谷

大沼

緒方

井口

茂

武蔵野・三鷹

北多摩北

北多摩中

鹿田

克己

府調

北多摩

西多摩

島

南

中

西

江品

目

黒

高橋

毅

小田部

規矩男

鮎川

澄子

弘

緒方

井口

茂

武蔵野・三鷹

北多摩北

北多摩中

鹿田

克己

府調

大世

田

谷

大沼

緒方

井口

茂

武蔵野・三鷹

北多摩北

北多摩中

鹿田

克己

府調

北多摩

西多摩

島

南

中

西

大世

田

谷

大沼

緒方

井口

茂

武蔵野・三鷹

北多摩北

北多摩中

鹿田

克己

府調

北多摩

西多摩

島

南

中

西

大世

田

谷

大沼

緒方

井口

茂

武蔵野・三鷹

北多摩北

北多摩中

鹿田

克己

府調

北多摩

西多摩

島

南

中

西

大世

田

谷

大沼

緒方

井口

茂

武蔵野・三鷹

北多摩北

北多摩中

鹿田

克己

府調

北多摩

西多摩

島

南

中

西

大世

田

谷

大沼

緒方

井口

茂

武蔵野・三鷹

北多摩北

北多摩中

鹿田

克己

府調

北多摩

西多摩

島

南

中

西

大世

田

谷

大沼

緒方

井口

茂

武蔵野・三鷹

北多摩北

北多摩中

鹿田

克己

府調

北多摩

西多摩

島

南

中

西

大世

田

谷

大沼

緒方

井口

茂

平成 30 年度 東京都退職校長会 一般会計決算書

1 収入総額 10,632,138 円 2 支出総額 10,476,529 円 3 差引残額 155,609 円

単位＝円 △収入は予算より減、支出は予算より増

収 入 の 部					
款	項 目	30 年度予算額	30 年度決算額	増 減	摘 要
年 度 会 費		7,363,000	6,762,600	△ 600,400	2,500 円× 2,704 名、1,300 円× 2 名 (昨年度分 16 名含)
繰 越 金		532,219	532,219	0	
雑 収 入		700,000	1,077,319	377,319	利子、祝金、広告掲載料等
積 立 基 本 金		2,000,000	2,260,000	260,000	特別会計積立基本金より
合 計		10,595,219	10,632,138	36,919	
支 出 の 部					
款	項 目	30 年度予算額	30 年度決算額	増 減	摘 要
会 議 費		520,000	500,483	19,517	
	総 会 費	450,000	426,219	23,781	総会に関する諸費(会議費、記念品費、発送費等)
	役 員 会 費	50,000	74,264	△ 24,264	都公立一覧、監査会・五団体懇・全連退懇・理事会茶代等
	部 会 費	10,000	0	10,000	各部の会合・資料・印刷・通信費等
	各種委員会費	10,000	0	10,000	各種委員会資料印刷・通信費等
事 業 費		3,445,000	3,659,180	△ 214,180	
	会員名簿発行費	20,000	0	20,000	会員名簿作成・発送費・通信費等
	会 報 発 行 費	950,000	1,269,124	△ 319,124	会報 199 ～ 202 号印刷・発送費等
	生涯学習費	60,000	41,400	18,600	会員研修会会場費・講師謝金等
	慶 弔 費	750,000	750,000	0	香料
	渉 外 費	50,000	10,680	39,320	他機関との交渉、現職校長会連絡費、懇談会会場費等
	クラブ補助費	80,000	79,872	128	クラブ事業の助成費
	教育支援費	50,000	50,000	0	研修会諸経費等
	会員増強費	50,000	27,680	22,320	新会員入会に関する通信費等
	H P 運 営 費	270,000	307,104	△ 37,104	H P 維持費等
	支部活動助成費	950,000	913,320	36,680	支部助成・県支部助成・振替料等
	支部活動祝金	200,000	210,000	△ 10,000	支部総会・周年行事等の祝金等
	島嶼活動助成	15,000	0	15,000	支部長会交通費一部負担
事 務 費		3,760,000	3,675,668	84,332	
	事 務 用 品 費	90,000	76,384	13,616	事務用品、消耗品等
	備 品 費	10,000	0	10,000	事務機器等
	事務員行動費	1,080,000	1,170,000	△ 90,000	本部事務員行動費、資料作成費等
	事 務 所 費	1,900,000	1,609,207	290,793	事務所借料、光熱費、電話料等
	印 刷 費	90,000	176,493	△ 86,493	資料文書等印刷費、コピー代、印刷機保守契約費用等
	コ ピ ー 機 費	500,000	512,028	△ 12,028	コピー機・印刷機リース代等
	通 信 費	90,000	131,556	△ 41,556	事務局の通信連絡用諸費
交 通 費		1,400,000	1,497,200	△ 97,200	役員会・部会・事務局等の交通実費等
全連退 分担金		1,180,000	704,000	476,000	全連退会費 400 円× 1,760 名 別に 400 円× 1,000 名分納入
運営資金積立金		20,000	20,000	0	周年事業積立
会員名簿積立金		10,000	10,000	0	会員名簿発行積立
諸 費		240,000	409,998	△ 169,998	全連退関プロ大会費等
雑 費		10,000	0	10,000	諸雑費
予 備 費		10,219	0	10,219	予備費
合 計		10,595,219	10,476,529	118,690	

平成 30 年度 特別会計 決算書

1. 運営資金積立金			
収 入		支 出	
運営資金積立金	1,765,837		
本年度積立金	20,000		
利息	14		
計	1,785,851	計	0
		次年度繰越金	1,785,851

2. 会員名簿積立金			
収 入		支 出	
会員名簿積立金	232,674	新会員名簿印刷	164,700
本年度積立金	10,000	振込手数料	432
利息	2		
計	242,676	計	165,132
		次年度繰越金	77,544

3. 積立基本金			
収 入		支 出	
前年度繰越金	27,695,431	一般会計へ	2,260,000
寄付金（都民互助会）	1,730,000	一般会計へ補充	1,045,547
利息	3,257		
		関プロ大会へ	144,359
計	29,428,688	計	3,449,906
		次年度繰越金	25,978,782

家賃補充	290,000
全連退会費補充	400,000
印刷機保守	74,115
会報203号印刷	281,432

平成31年4月1日

東京都退職校長会 会長 多田 丈夫 ㊞ 会計部長(副会長兼任) 小久保 正己 ㊞

諸帳簿、証書等、関係資料と対照監査したところ、適正且つ正確に処理されていることを確認しました。

平成31年4月10日

監事・氏名・印 藤井 千恵子 ㊞ 今井 重夫 ㊞

令和元年度 事業計画

1. 活動方針

本年度は、60年ぶりに全面改正された本会会則の〈実行元年〉の年と位置付ける。まずは、本部と支部が一体となって東京都退職校長会の存在感を高め、未来に繋がる組織力強化という一本道に向かってスクラムを組み、全会員が足並みを揃えた〈飛躍の年〉とする。

そのためには、各校種の現職校長会との連携に力を入れ、本部に設置されたプロジェクトチームを司令塔に会員増強の成果が実る最善の環境づくりに努める。本部は、今年度のスローガンに、「Step Up System」－組織の発展をめざそう－を掲げ、人口減少や高齢化の渦中にあっても校長退職者の全員加入を目指しつつ、支部間の結束を固め、教育の普遍性を堅持しながら、心豊かな生き方のできる第二の居場所づくりに貢献する。そのために、次の3つの具体的な方針を掲げる。

- (1) 改正された会則の理解と本会の組織力に期待し、運命共同体たる各校種の現職校長会との絆を強めながら、会員の増強と伸びゆく退職校長会づくりに全力を尽くす。
- (2) 本会がめざす「親睦と互助」・「生涯学習の推進」・「教育支援活動」の一層の充実を期し、本部と支部が一体となって、魅力ある支部活動の紹介・推進・発展を支援する。
- (3) 都教委との委託事業の促進を図ると共に、各事業の透明性に配慮し、各支部間の横断的な協力関係を促進しながら、各関係諸団体との連携を強化する。

2. スローガン「Step Up System」－組織の発展をめざそう－

3. 活動の重点

○新しい会則の条件に即した校長退職者の全員加入を目標に、入会促進の環境を整える。

○各種会議、委員会活動の活性化と効果的な運営に努め、責任ある体制づくりに努力する。

○財政の健全化を目標に、各事業の見直しをすると共に、常に適正な予算執行に努める。

○会員の親睦と互助に寄与すると共に、生涯学習の場と健康づくりの拡充に努める。

○会報やHPの充実を図り、会員相互の情報を共有し、本部と支部との絆を一層強める。

○教育フォーラムを充実させ、生きる力となる会員の研修・修養の場を企画する。

○会員増強推進プロジェクト・チームを核に会員増強の一元的な取り組みに努める。

○都教育庁委託事業を受け入れ、会員の才知と豊富な経験を活かし、その期待に応える。

○教育関係諸機関・諸団体との連携を図り、伸び行く本会の充実と発展に努める。

4. 各部・委員会の目標・事業計画（6部8業務）

各部を6部とし、総務部内に庶務担当部と会計担当部を設け、責任体制の元、組織の効率的な運営を図る。また、会員増強の促進を図るため、現職校長会や各関係機関との連携・強化する業務推進本部を設置し、その任を負う副会長を置く。

(1) 総務部・・・・・・・・(庶務部門と会計部門を置く)

① 庶務担当部

○本会の綱領や活動方針を踏まえ、業務の円滑な運営・管理・保管の任を負うと共に年間計画の立案・管理をはじめ、各部、各組織間の連絡、調整等に努める。

○総会、評議員会、支部長会、運営委員会等の業務の運営進行の任に当たる。また、五団体との教育懇談会の企画・立案・運営の任を負う。

○全連関係の調査・連絡の任に当たり、一部9県の関ブロ関係業務の調整に努める。

○42支部の情報収集に努め、本会の諸課題に関する連絡・調整に努める。

○会員名簿の発行及び退職予定者、退職者で未加入者の情報を的確に提供し、入会促進に努める。

○その他、部に関与する事項。

② 会計担当部

○本会の会計面の一括管理・執行を担当すると共に、財政の健全化に努力する。

○別に定める「予算編成の基本原則」に即して予算編成と執行計画を立案する。

○各部、委員会等への支払い業務を行い、諸事業の円滑な運営ができるようにする。

○会員減少に伴う収入減により、適正な予算執行に努め、支出の抑制に努める。

○その他、部に関与する事項。

(2) 企画調整部

○東京都教育委員会との委託事業を推進の任を負い、「人材バンク受託事業運営特別委員会」の業務・運営推進・管理を担当する。

○東京都教育委員会幹部との懇談会、及び教育フォーラムの企画・運営を行い、総務部と連携して各部間の連絡・調整を図る。

○各部で実施する事業の具体的な内容把握に努め、円滑な進行のための連絡調整を行う。

○各部が提案する資料の把握・物品管理等に努め、諸会合が円滑にいくよう連絡調整に資する。

○その他、部に関与する事項。

(3) 広報部・・・・・・・・(会報部とHP担当部を置く)

○別に定める「会報誌発行の基本原則」に即して発行計画を立て、年4回の会報を発行する。発行予定は、7月、10月、1月、4月とする。

○本会の活動状況と的確な支部会員の情報を把握し、「分かりやすい、より魅力のある会報誌」の発行や適時・適切な「HPの充実」を図り、広報活動の活性化を目指す。

○会報及びHP等の編集及び校正作業を行い、編集全般の責任を負う。発行に当たっては、正副会長会・運営委員会及び事務局長と緊密な連携を図る。

○各都道府県及び支部からの会報・情報誌の管理・保管に努めると共に、有用な教育情報を本会の会議に提供する。

○その他、部に関与する事項。

(4) 福利厚生部

○叙勲、米寿等の長寿者に関する支部情報の的確な把握に努め、併せて慶祝等の情報の収集、整理、保管の任を負う。

○別に定める「慶祝等に関する内規」に沿って、会員の慶弔に関する事務を処理する。

○毎年10月に実施される「東京都教職員物故者追悼式」での「追悼の言葉」の遺族代表候補者を7月上旬までに選定し（東京都教職員互助会）に推挙する任務を負う。

○各支部との連携を密に、長寿会員、功労会員、荣誉会員の正確な把握に努め、総会時の名簿に掲載する責任を負う。

○新年会及び総会後に実施される懇親会の企画、推進の任を負う。

○年金、高齢者医療、介護等の福利厚生に関する情報提供に資する。

○その他、部に関与する事項。

(5) 生涯学習部

○各支部の生涯学習活動に関する情報収集に努め、年2回の魅力ある会員研修会を企画、運営すると共に、会員のニーズに応える研修活動の創意工夫をする。

○年2回のクラブ委員長会を運営し、活動状況、クラブ会員の把握等に努め、創意工夫して各クラブ活動の活性化に努める。

○各支部及び居住する地域で活躍する会員の情報を集め、会報誌等への掲載に尽力する。

(6) 業務推進本部

○会員増強推進プロジェクト・チームとの運営・調整に当たる。

○会員増強に関する情報の収集・業務・管理を担当する。

○5団体の現職校長会及び42の支部長会等との会員増強に関する情報提供及び連携の任に係る。

○その他、会員増強に関する事項。

(7) 委員会関係

① 「会員増強推進プロジェクト・チーム」

○改正された会則等の周知に努め、当分の間、会則等の一部改正の素案作りや検討の任に当たる。

○校種別の現職校長会との関係強化の任に当たり、本部との連絡・調整の業務を行う。

○会員増強の推進に関する情報収集の任に当たり、効果的な方策の立案に資すると共に本部業務を補完する。

○委員会関係の業務及び任務等については、別途定める。

② 「人材バンク受託事業運営特別委員会」

○委員会は、企画調整部と連携して都教育庁受託事業「平成31年度教育庁人材バンク事業運営に伴う相談・普及・広報等業務委託」のすべての任を負う。

○委員会の業務は、東京都教育委員会との契約書及び仕様書により執り行われる。

○委員会関係の業務及び任務等については、別途定める。

(8) 教育関係機関・団体との連携

○東京都教育委員会との懇談会を毎年開催し、教育課題に応える教育支援を推進する。

○東京都国立幼稚園・子ども園長会、公立校長会4団体との教育懇談会等を開催し、各校種間の校長会との連携強化に努める。

○全国連合退職校長会との連携強化に努めるとともに、一部9県の関東甲信越地区退職校長会との情報交換を密にし、資料提供及び連携強化に努める。

(9) 都教育庁受託事業

○都教育庁人材バンク受託事業運営特別委員会

「平成31年度人材バンク事業運営に伴う相談・普及広報等の業務」については、本会が東京都教育委員会より事業受託し、仕様書により本委員会の委員長を中心に事業推進の任に当たる。また、同事業の費用弁償については、契約書に基づき別途処理する。

(10) 事務局の業務・管理体制

新しい事務局長の元、ドミノ方式による事務室態勢と複数の事務職員を配置することで機動的業務を行う。また、役員の協力のもと、内規に即した円滑な事務室運営を図ると共に、今後は、文書による事務引継ぎをすることとする。

令和元年度 東京都退職校長会 一般会計 予算書

1 収入総額 10,468,609 円 2 支出総額 10,468,609 円 3 差引残額 0 円

単位＝円 △ 30 年度より減

収 入 の 部					
款	項	目	令和元年度予算額	30 年度予算額	増 減
年	度	会 費	7,113,000	7,363,000	△ 250,000
繰	越	金	155,609	532,219	△ 376,610
雑	収	入	700,000	700,000	0
積	立	基 本 金	2,500,000	2,000,000	500,000
合	計		10,468,609	10,595,219	△ 126,610
支 出 の 部					
款	項	目	令和元年度予算額	30 年度予算額	増 減
会	議	費	490,000	520,000	△ 30,000
	総	会 費	420,000	450,000	△ 30,000
	役	員 会 費	50,000	50,000	0
	部	会 費	10,000	10,000	0
	各	種 委 員 会 費	10,000	10,000	0
事	業	費	3,385,000	3,445,000	△ 60,000
	会	員 名 簿 発 行 費	20,000	20,000	0
	会	報 発 行 費	950,000	950,000	0
	生	涯 学 習 費	50,000	60,000	△ 10,000
	慶	弔 費	750,000	750,000	0
	渉	外 費	30,000	50,000	△ 20,000
	ク	ラ ブ 補 助 費	80,000	80,000	0
	教	育 支 援 費	50,000	50,000	0
	会	員 増 強 費	50,000	50,000	0
	H	P 運 営 費	270,000	270,000	0
	支	部 活 動 助 成 費	920,000	950,000	△ 30,000
	支	部 活 動 祝 金	200,000	200,000	0
	島	嶼 活 動 助 成	15,000	15,000	0
事	務	費	3,745,000	3,760,000	△ 15,000
	事	務 用 品 費	75,000	90,000	△ 15,000
	備	品 費	10,000	10,000	0
	事	務 員 行 動 費	1,080,000	1,080,000	0
	事	務 所 費	1,900,000	1,900,000	0
	印	刷 費	90,000	90,000	0
	コ	ピ ー 機 費	500,000	500,000	0
	通	信 費	90,000	90,000	0
交	通	費	1,400,000	1,400,000	0
全	連	退 分 担 金	1,080,000	1,180,000	△ 100,000
運	営	資 金 積 立 金	20,000	20,000	0
会	員	名 簿 積 立 金	10,000	10,000	0
諸		費	60,000	240,000	△ 180,000
雑		費	10,000	10,000	0
予	備	費	268,609	10,219	258,390
合	計		10,468,609	10,595,219	△ 126,610

令和元年度 特別会計 予算書

1 運営資金積立金				2 会員名簿積立金			
収 入		支 出		収 入		支 出	
繰越金	1,785,837			繰越金	77,542		
一般会計より繰入	20,000			一般会計より繰入	10,000		
利息	100	計	0	利息	100	計	0
計	1,805,937	次年度繰越	1,805,937	計	87,642	次年度繰越	87,642
3 積立基本金							
収 入		支 出					
繰越金	25,978,782	一般会計へ	2,500,000				
都民互助会寄付金	1,500,000						
利息	4,000	計	2,500,000				
計	27,482,782	次年度繰越	24,982,782				

平成 31 年 4 月 1 日

東京都退職校長会 会長 多田 丈夫

令和元年 春の叙勲受章会員

栄えのご受章お祝い申し上げます。計 16 名（敬称略）

瑞宝小綬章（2 名）

山口千鶴子（練馬）
高橋 秀美（狛江）

瑞宝双光章（14 名）

五十嵐邦享（渋谷）
金子 政雄（世田谷）
中村 治行（世田谷）
茅野 俊文（八王子）
窪 貞亮（日南）

小滝 岩夫（日南）
清水 七郎（日南）
小林 司朗（西多摩）
牧野内正美（千葉南）
中村 静夫（千葉中）

川和 誠一（千葉北）
國府田 豊（埼玉）
藺部 功（埼玉）
富野井輝昭（埼玉）

高齢者叙勲受章会員

栄えのご受章お祝い申し上げます。計 22 名（敬称略）

（令和元年 6 月 17 日までに本部に届けがあった方々）

瑞宝小綬章（1 名）

安藏 復也（神奈川）

瑞宝双光章（21 名）

宇賀 春郎（狛江）
齋藤 吉衛（文京）
高柳 竹人（大田）
小宮 真美（世田谷）
小山 矩子（足立）
植松 千枝（足立）
石井 賢司（日南）

針谷 康信（日南）
進藤 弥重（日南）
木村 博文（北多摩北）
松本 辰雄（北多摩北）
秋永 悦郎（北多摩中）
上田 勝三（西多摩）
新澤 淑子（千葉西）

瀧脇 英男（千葉西）
湯山 清（神奈川）
常盤木 壽夫（神奈川）
白石 友三（神奈川）
佐藤 松寿（神奈川）
岡野 武弘（神奈川）
岩島 和夫（神奈川）

※上記、宇賀春郎様につきましては、昨年受章されています。
報告が遅れましたことを、お詫び申し上げます。

俳句

添え書きと共に届きし露の臺

神奈川支部 長谷川君子

花筏淀みて堰を越えられず

神奈川支部 平野 稔

大山に抱かれし里夏近し

神奈川支部 池田多津美

七滝の湯の香優しき青菜かな

神奈川支部 竹澤 正

カラカラと音たて涼よぶこおり水

神奈川支部 菅宮倫子

応募コーナー

令和元年 春の褒章受章会員

栄えのご受章お祝い申し上げます。

計 1 名（敬称略）

藍綬褒章（1 名）

皆川 美智子（大田）

短歌

〈吾が人生〉

吾が人生 昭和・平成と走り抜く

師友の恩恵ありてこそ今

人生は「和して同ぜず」旅心

嘗ての仲間 心に刻み

幾たびか迎えし春も八十路半ばに

なお夢多き人生という旅

千葉南部支部 大久保明夫

枝先の 雨滴そつと指にのせ

陽光に照らして 少女の見ている

雨ふりて 傘持ち迎えに 母の来る

小さき天使が 手ひかれ行く

遠き日の 吾が子のように 乳臭き

一年生の まつわりてくる

中野支部 田中弘志

ご投稿ありがとうございます。

応募コーナーの作品につきまして

では、初めて応募された方を優

先して掲載させていただくと

もに、紙面の都合上掲載作品を

選ばせていただく場合がございます。

ご理解ご協力のほどお願い申し上げます。

令和元年度 第一回会員研修会

生涯学習部

一 開会の言葉

生涯学習部長 齊藤徳藏

二 会長挨拶 多田丈夫

会歌を作曲された宮下先生は東京室内管弦楽団で「ヘンデルとグレーテル」の父親役、また、「第九」では、バリトンの独唱者として数々のご功績があり、

○期日

令和元年五月十三日(月)

○会場

東京ガーデンパレス

○演題

「生き生き人生を目指して」
— 歌の世界 その喜び —

○講師

会歌作曲者

宮下 洋 先生

司会

東京都退職校長会
生涯学習部副部長

田中 弘志



講師 宮下先生

教育者としても東邦学院大学音楽科助教授、都内中学校の校長をされたことなどの紹介がありました。

三 講演

(1) 会歌作曲の経緯と思い

東京都退職校長会六〇周年に際して会歌の作曲依頼を平成二十四年晩秋に受け、翌年の一月五日に完成した。「江戸川支部故塩見晴康先生」の力強い歌詞に心打たれその躍動感に導かれるようにして作曲した。三番とも歌詞の前半は、深い絆で結ばれた会員の目指す道を暗示し

ているため比較的になだらかな旋律にした。「生き生き人生我らの心」から後半の盛り上がりは、伝統と希望に貢献する過去や未来の「不在の他者」と、多様な関係の中で今を生き抜く私たちの営みの湧き立つ心の共鳴を力強い和音で支える旋律とした。末永く歌い継がれることを願ってやまない。

(2) 音楽全般について

人間は太古の時代から声による表現や歌う本能と機能を備えている。楽器演奏や舞踊を伴うものもあるが、歌の代用であり音楽表現の根本は歌唱といえる。

古代ギリシャのミューズ女神によって歌われた賛歌を受け、中世末期は武士道精神や女性賛美、信仰心、政治風刺を歌った。一七世紀には、古代ギリシャ劇の復活を目指してオペラなどに発展した。

音楽の父、バッハが集大成した音楽の三要素といわれるものがある。

① 人の心を動かし、心を開かせるもの

② 人の心に何かを教えるもの

③ 人々を喜ばせるもの

これは、演奏を享受する側も発信する側も同じで、ジャンルを超えて共通する。

歌曲の王、シューベルトの芸術歌曲は、大自然（小川のささやき、鳥のさえずり等）の要素と人間の内面感情を歌唱とピアノの両方に同じウエイトを置いた旋律とリズムを描いた。

表現のための発声には、作品に潜むドラマの要素に従って喜怒哀楽の情感、憧れ、苛立ち他「生活実音」の再現が求められる。オペラに限らず芸術歌曲、民謡、我が国の伝統的な長唄の類、演歌などあらゆる歌にそれが求められる。

生活実音の再現発声には、吸気を伴う横隔膜のマイナス摩擦と、息を吐きながらの呼吸のプラス摩擦がある。涙が滂沱と流れるほどの「泣き」と、腹を抱

え転げるほどの「笑い」の訓練を行った後の歌唱表現はその効果が顕れ、より「生活実音」に近付いた発声となり人の心を感じさせる。

(3) 演奏

(先生が内容の説明をされて、実際に歌を歌ってくださいました)

○歌劇「魔笛」よりパパゲーノの詠唱『恋人か女房か』

○シューベルト作曲、歌曲集「白鳥の歌」より『セレナード』

○モーツァルト作曲、歌劇「ドン・ジョヴァンニ」より『カタログの歌』

四 一緒に歌いましょう

「第九」「喜びの歌」

「最上川舟歌」山形県民謡

「波浮の港」

「花は咲く」

謝辞 副会長 藤崎武利

以前から先生をお呼びしたい
という思いは生涯学習部で出て

おりましたが本日やっと願いが叶いました。音楽って凄いな、良いなと改めて感じました。皆さん小・中学生の様に真剣に歌っておりました。生き生き人生を目指してこれからも音楽を楽しみたいと思いました。

【アンケートより】

・素晴らしい歌声を聴かせていただき感動しました。また、一緒に歌わせていただき楽しかった。
・豊かな素晴らしい時間を過ごさせていただきました。

研修会の内容、運営について「良かった」の回答がほとんどで全員が参加できたと実感した内容の感想が多く見られました。また、今後の、研修会の内容や講師のご希望についても貴重なお意見を有難うございました。参考にさせていただきます。

(文責 土幸壽子)

教育フォーラム2019報告

明日を展望した退職校長会の在り方

新しい会則の意味する全員加入への道を考える

去る5月28日(火)、東京ガーデンパレスにおいて東京都退職校長会の第4回教育フォーラムが行われた。参加者は各支部の賛同も得て110名を超え、2時間半にも及ぶ真剣な意見交換が行われた。

この研修会は宇津木順一副会長の進行で行われた。伊地敦子副会長の開会のことばに続き、多田丈夫会長から今回のフォーラムの趣旨が述べられ、会則改正の意義と退職者全員加入に向けて「ひたすら一本道をひた走る」との力強いことばがあった。本研修会は、第1部・基調講演と第2部・パネルディスカッションの二部構成で行われた。

第一部 基調講演

講師 神奈川支部会員

今井重夫

今回の会則改正は最近の極端な入会者減少への喫緊の課題対

応であり、大胆な改革の必然性に迫られた結果である。その改革の実現に向けて発足した「会員増強プロジェクトチーム」の活動内容についての報告があった。

その中で、昨年9月の発足以来、全員加入を目指す具体的な活動に触れ、特に現職校長会との関係について、都の現職校長会の席で本会の説明資料を配布し、入会の勧誘を行うなどの、具体的な事例が報告された。

今後の対応として、本年度退職者(定年、再任用)の動向や未加入者の対応など情報収集に努める方策が述べられた。



今井重夫先生

最後に、退職校長会の根幹は魅力ある支部活動にあるとし「本部・支部・会員が一体となって会員増強に努めましょう」のことばで締めた。

第二部 パネルディスカッション

パネラーは、小林由衛（世田谷）、緒方良子（中野）、井口茂（杉並）、榛葉邦男（八王子）、菅谷権之助（千葉中部）、東條康永（埼玉）の6人の現・元支部長が担当されたが、そこで述べられた主な内容について列挙してみる。

●会則改定後の各支部の現状

・退職後の入会支部を選択制に踏み切ったことはとても良かった。

・都外支部に在っては、入会の選択制については賛成できないが、会員確保のためにはやむを得ない面もあるう。

・現職校長の準会員制については、まだまだ現職校長間には浸透しきっていないのではないか。

・いわゆるB会員への対応を如何にすべきか、迷っている。

●現職校長会との連携

・支部総会や教育懇談会への参加には、学校への事前訪問を行い関係を深めている。

・支部総会には、教育長、課長、小中校長会長等の参加を頂いており、今後も続けて行きたい。

・都外支部では、現職校長会との接触は出来ないが、年賀状を出すなど、会員確保に努めている。出来れば周辺地区からも紹介して欲しい。

●「全員加入の一本道」に向けての今後の対応

・人は「情」で結ばれることもある。現職校長との人間関係も大切にしていきたい。

・新採教員任用前研修に代わる支援として、こども園等介助員不足に悩む現場のお手伝いなどできないものか。

・会則改正の成果は直ぐには表れるものではない。根気強く努力して行くべきと思う。

・支部の存在が危ぶまれる事態もある。周辺支部の協力等支

●援態勢が必要と思う。

●会場の皆さんのご意見

・「継続は力なり」みんなで会員増強に努めよう。例えば、もう学校に関わりたくないという人達でも、声を掛ければ考えが変わることもある。また、先輩後輩の良き関わりにも期待したい。

・入会時の支部の選択に喜びを感じると共に魅力ある支部のクラブ活動にも期待している。他支部との交流を積極的に取り入れたらよいと思う。

・クラブ活動では、地域の名勝・旧跡など素晴らしい発見がある。他支部の会員との交流にも取り入れて行ったら良いと思う。



パネルディスカッション

・研修会に誘って頂き入会できたと、との声もあった。素敵な活動も情報がなければ参加できない。会費納入だけの会員にも情報を提供し直接声掛けをすることがとても有効である。

・個人情報の開示が大きな課題となっており、今後退職校長の情報収集は極めて困難になって行くと思われる。いわゆるB会員への対応も今後の課題となろう。

まとめ

会則改正の重要性について、基調講演、パネルディスカッション、また会場の皆さん方等から今後を示唆する貴重なご意見を頂いた。これらのご意見を本部や各支部の活動に有効に生かして行なって欲しい、と桐谷澄男副会長のまとめのことばがあった。

最後に守屋龍男実行委員長の閉会のことばで研修会を終了した。

（今井重夫）

新入会員の声

人に恵まれた
多くの職場に感謝して

練馬支部 切刀 道子

三十八年間、八つの小学校の教員生活を大過なく無事終えることができたのは、どの職場でも多くの先輩・同僚の支えと励ましのおかげだったと感じております。初任の学校では、教科指導や生活指導を含めた放課後の交流がたくさんありました。

放課後の悩みの相談、語らい会、校外での飲みニューケーション、スキー、登山、旅行、スポーツなど多岐にわたっていました。今は多忙のせいか、みんなで何かするということは少なくなっているように思いますが、様々な活動の中で教育や子供のことを教えてもらったことは貴重な時間だったと思っています。初任の時の教員と今でも家族ぐるみで交流しています。

私は退職してからもう六年が経っていますが今でも人に恵ま

れたことに感謝をしています。

足立区、北区、豊島区の三区に勤務しましたが、特に、豊島区には、教員、教頭、校長と合わせて二十九年間と長い間、勤めました。この間、都の研究員、東京都小学校国語教育研究会など特に国語の研究に継続的に関わることができました。

そして「石の上にも三年」の国語研究が、退職後の仕事にも活かすことができています。退職後は、大学の講師と国語の研究会の事務局で仕事をしていました。現職の時と現在を比べてみると、あれこれと多忙の管理職の時より、一つのことをじっくりと深く勉強する機会が持てていることです。じっくりと勉強したことを現場とは違った立場ですが、教員を目指す学生に「教えることのやりがい」を伝えたいと思っています。そのために、目下、自身の教え方に努力をしています。

新しいことにチャレンジ

できる気持ちを大切に

府中支部 笹川 敏

私の初任校は青梅市立泉中学校でした。当時、新設間もない学校でしたがＬＬ教室や各教室にビデオ放送の出来る設備が整っており、そんなことから視聴覚教育に興味をもちました。

その頃から、都中教研の視聴覚教育研究会にも参加させていただきました。研究会には、府中市で活躍している人も多く、次の異動先は府中市にと思っていましたが、思いが通じたのか、府中第二中学校でした。

府中市では、もうすでに全中学校にＰＣが導入され、様々なソフトを使い、教科だけでなく行事などさまざまな分野で活用ができたと思います。

次の赴任先は調布市立第五中学校でした。ここでは、生徒の生活指導面で生徒と向き合う時間が必要であったと同時に教員

の団結力の大切さを学んだと思います。

次は再び青梅市に戻り、その年に開設された青梅市立東中学校でした。東中は都立自立支援施設誠明学園の中に開設された学校で東小学校の職員も同じ職員室だったため小・中教員間の理解も進み、その後の小中連携や支援教育の取り組みに役立ちました。

その後、西多摩郡日の出町立平井中学校で副校長として6年間、校長として府中第八中学校で4年間お世話になりました。

今から考えると、教員生活はあつという間でしたが、おかげさまで多くの方々と出会いがあり、同じ思いを共有出来る先生方と楽しい思い出を作れたと思います。退職しても出会いを大切にし、さらに新しいことにチャレンジしていきたいと思っています。



支部だより

会員の親睦を願って

港支部長 野々山 毅

今までに港支部の大きな改革を行ったことが2回あります。

1回目は、平成26年度で港区在住のA会員が9名、他区市在住のB会員が85名になった時です。今まで行っていた見学会や学校訪問が参加者が少なくできなくなってきました。そこで、B会員の方々に支部に残っていただけのかの調査をし、35名の方々が残ってくださることにになり、A・Bを止め全員を港支部会員としました。

その後、27年度に会計担当の桜井明子先生が亡くなり、28年度に山本英夫支部長が川崎市に転居され、役員は副支部長の私一人になりました。そこで2回目の改革として2名の方に役員に入っていただき、組織を作り直し、合わせて総会・懇親会の費用を軽減するため会場を変え

ました。

更に、会員の情報交換の場として近況や研究発表校、周年記念式典などの学校情報もお届けするようにしました。

昨年度からは、青木康平教育長のご配慮で教育委員会発行の「ひろば」を皆様にお届けし、喜ばれています。

また、幼・小・中学校の区教研究発表会にも参加して、現職の先生方との交流もできています。そして、学校から元校長先生の計報などもお知らせいただき、会員にも伝え、名簿の管理にもいかしています。

本部の会則で、会員は居住する地域でも勤務した地域でも所属できるようにしました。会員の変化は未定ですが、現職の先生方との交流を図り、会員相互の親睦を深めていくように役員と力を合わせ、微力ですが、力を尽くしていきたいと存じます。

親睦と互助

町田支部長 沖倉 啓壽

過日、町田支部総会&懇親会が開かれ令和元年の支部活動について会員の皆様から承認を頂いた。活動開始である。その内の二事業について紹介したい。

過去、十五回と十回を数える歴史を持つ会員作品展と宿泊研修会である。二事業とも継続十年を越える実績を持ち評価も頂いている。

◆作品展は、○絵画（油絵・水彩・日本画・版画他）○書道（刻字・篆刻含む）○写真○手芸・工芸○俳句・詩歌○水石○立体（彫刻・インテリア・模型）○その他（紀行文・著作など）会場「町田市立国際版画美術館市民展示室」展示中呈茶有り、出展者も含む懇親会も実施。

◇研修会は、○箱根方面（21）○潮来方面（22）○万座温泉・小布施方面（23）○鳴子・平泉方面（24）信州・南木曽方面（25）○新穂高方面（26）○三谷温泉方面（27）○福島・会津若松方面（28）○志賀高原・旧軽井沢方面（29）○諏訪・横谷温泉方面（30）（内数字は

年度）等で三年程は小田急線やRVバス（貸切バス）を利用していたが、参加者のばらつき等もあって工夫が求められ小田急「バス旅」の利用になったものである。

作品展の出品者数や展示場の確保、またバス旅に於ける最少催行参加者数の問題等々は事業担当者にとって頭を悩ます課題でもあり知恵の絞りどころでもあった。

今回、会則が見直され改正がなされたが、町田市は他県と隣接しており、各会員の想いを取り入れる工夫の中で、既に以前から隣接支部にも呼びかけ、事業の主旨を理解し合い、親睦と互助の目的達成の一方途を実現し、合

同での事業開催を可能として来ているのである。



研修旅行 横谷温泉

生きがいを見つける

西多摩支部長 村野 久子

3月より新会員の勧誘を始めましたが、思うような成果はありません。何故だろうと考えて思い当たることがありました。それは退職校長会の事業内容が理解されておらず、退職者12人が12人とも「退職校長会って何をしているのですか?」と聞いてきたことです。「人材バンク受託事業」や「採用前実践的指導力養成講座」の講師など本支部は『人材の宝庫』であるにも拘わらず、その「知力」をほとんどの会員が発揮できていません。本支部の会員にとって事業内容が不明で、組織の存在に疑問があったのです。

今は人生百年の時代です。七十代になっても何か社会のために働きたいと思われる方も多いと思います。「仕事は与えられるのを待つのではなく自ら探す」「生きがいを自分で見つけ

る」そんな時が来たのではないかと思います。

最近の新聞報道によれば、日本は世界最高率の長寿国になり、85歳以上で排泄や食事などで常に介護が必要となる要介護度3以上の人の割合は、約4人に1人となりました。「老人ホーム」の職員の方々が日夜奮闘しています。介護の現場では、①入所者の相手になる②手を握って隣に座る③施設内を徘徊する人と一緒に歩くといった支援を必要としています。

教育の分野だけでなく、介護の分野にも私たちの生きがいの場がたくさんあります。会員の皆様が積み重ねてきた経験と知識とネットワークを介護の分野で発揮する時です。そのことは健康と生きがい、孤独からの解放をもたらします。自分自身で見つけた活動が社会の役に立ち、生き方を豊かにし、会員増に繋がっていくと期待しています。

宝の山

千葉中部支部長 菅谷 廉之助

我が支部は現在会員七十一名。小なりと言えど秀れた支部だと自画自賛している。

その根拠は優秀な役員と支持して下さる会員各位の存在なり。

以下順にご紹介。

まず顧問の二人。

長門郡司氏、白寿の今、短歌の会を主宰し、瑞々しさを失わず。三宅高明氏、我が支部創立功勞者にて書に卓越し墨痕鮮か。

評議員西郷隆一氏、隆盛一族の直系、威風堂々、趣味多彩の名士。副支部長小林裕子氏、親子孫三代の華道展に歴史を重ねる。会計も兼務し本会支部重鎮なり。若菜正子氏、習い事多くダンスのためか姿勢すっきりの仕事人。

庶務 菅原賢男氏、精密機械に人間味を加えた仕事で屋台骨。青木勉氏、二十年弱東京国語道場で若手教師を育て、今年度就任。会報 土屋志磨枝氏、全国

退職女性校長会の要職を務めつつ会報づくり十数年以上。

櫻井慎一郎氏、写真、太極拳、

詩吟それぞれ師範級、会報一筋。

高橋宏明氏、多忙のため役員会に出席出来ずも紙面作りに貢献。

研修 佐々木勇氏、支部「歌う会」の指導十数年、他でも大活躍。

会計 大金蓉子氏、名家に嫁

して、今大蔵大臣。

厚生 岩崎和代氏、県退公連

の会計を務めつつ仕事一途なり。

濱上悦子氏、今年度就任、役員会活性化への期待誠に大なり。

会計監査 清水久四郎氏、昨

年秋叙勲。今もジョギング欠かさず続けている。

瀧澤秀磨氏、十年庶務を担い、

今年度より家庭の事情で会計を

みる立場にまわる。

支部長の役割はこれらの優れた

方々を広く東京都退職校長会

の皆さんに知らせ、記憶に止めて

いただく事にある。

宝の山に囲まれた私はしみじ

み幸せを感じている。

(令和元年6月届出現在)

物故者		謹んでご逝去を悼み ご冥福をお祈り申し上げます		氏名		年月日		支部名		校種		年齢		名簿頁	
篠原	義政	31.2.28	府中	小82	68	21	98	63	53	65	54	76	24	103	62
舟生	清	31.2.28	杉並	小99	21	98	63	53	65	54	76	24	103	62	88
塚越	昭	31.2.21	埼玉	小92	98	63	53	65	54	76	24	103	62	88	94
上條	元良	31.2.18	北多摩	小94	63	53	65	54	76	24	103	62	88	94	99
宮城淳	二郎	31.2.16	日南	中97	53	65	54	76	24	103	62	88	94	99	39
金子	品福	31.2.16	北多摩	小90	65	54	76	24	103	62	88	94	99	39	22
杉林	正一	31.2.10	日南	中89	54	76	24	103	62	88	94	99	39	22	33
岩田	茂	31.2.8	西多摩	小80	76	24	103	62	88	94	99	39	22	33	44
庄子	好子	31.1.31	北	小92	24	103	62	88	94	99	39	22	33	44	55
福島	唯義	31.1.16	神奈川	中101	103	62	88	94	99	39	22	33	44	55	66
飯森	正志	31.1.10	北多摩	中86	62	88	94	99	39	22	33	44	55	66	77
奥山	稔	31.1.8	千葉西	高94	88	94	99	39	22	33	44	55	66	77	88
井口	範之	30.12.31	北多摩	中97	60	88	94	99	39	22	33	44	55	66	77
野口松五郎		30.12.27	葛飾	中95	38	104	22	33	44	55	66	77	88	99	110
保岡	孝之	30.11.8	神奈川	小86	104	22	33	44	55	66	77	88	99	110	121
椎名	義明	30.10.3	杉並	高92	22	33	44	55	66	77	88	99	110	121	132
鈴木	哲郎	平成30.8.30	葛飾	小99	39	22	33	44	55	66	77	88	99	110	121
大平眞一郎		31.3.3	豊島	高96	23	34	45	56	67	78	89	90	101	112	123
加納	竹文	31.3.4	北多摩	養77	72	83	94	105	116	127	138	149	160	171	182
高見澤具美		31.3.15	板橋	小87	29	40	51	62	73	84	95	106	117	128	139
小池	國雄	31.3.16	八王子	中80	47	58	69	80	91	102	113	124	135	146	157
長田	定利	31.3.18	北多摩	中100	65	76	87	98	109	120	131	142	153	164	175
山本堅太郎		31.3.24	調布	高93	69	80	91	102	113	124	135	146	157	168	179
新井	哲雄	31.3.24	杉並	小93	21	32	43	54	65	76	87	98	109	120	131
森	良多	31.3.24	千葉西	高93	90	101	112	123	134	145	156	167	178	189	200
小竹	正彦	31.3.25	北多摩	中97	59	70	81	92	103	114	125	136	147	158	169
大野	照	31.3.29	府中	中86	68	79	90	101	112	123	134	145	156	167	178
鈴木	順子	31.3.31	江東	小75	6	17	28	39	50	61	72	83	94	105	116
金長健四郎		31.4.7	板橋	小95	28	39	50	61	72	83	94	105	116	127	138
藤田	榮一	31.4.9	足立	中97	35	46	57	68	79	90	101	112	123	134	145
小高誠太郎		31.4.21	埼玉	中87	99	110	121	132	143	154	165	176	187	198	209
井澤	敏子	31.4.29	北多摩	小84	65	76	87	98	109	120	131	142	153	164	175
岡田	定雄	令和元年5.6	品川	小89	7	18	29	40	51	62	73	84	95	106	117
加藤	俊次	元5.7	北多摩	小91	62	73	84	95	106	117	128	139	150	161	172
小谷	秀孝	元5.15	豊島	中94	24	35	46	57	68	79	90	101	112	123	134
松本	郁子	元5.18	世田谷	小92	17	28	39	50	61	72	83	94	105	116	127
大熊	靖	元6.4	狛江	中79	70	81	92	103	114	125	136	147	158	169	180
武田	東兒	元6.4	埼玉	中92	95	106	117	128	139	150	161	172	183	194	205

湯島の動静

5月

- 7 生涯学習部会・総務部会
- 8 企画調整部会・企画委員会
- 9 福利厚生部会
- 13 第66回総会・研修会・懇親会
- 15 広報部会
- 21 会計部会
- 27 拡大正副会長会
- 28 教育フォーラム 2019

6月

- 4 福利厚生部会
- 10 企画調整部会・生涯学習部会
- 11 人材バンク・運営委員会・正副会長会
- 12 総務部会
- 17 理事総会
- 19 広報部会・プロジェクトチーム
- 24 人材バンク
- 25 会計部会
- 26 広報部会
- 27 正副会長会

7月

- 2 福利厚生部会
- 3 広報部会
- 8 生涯学習部会
- 9 企画調整部会
- 10 広報部会・運営委員会
- 16 会計部会・総務部会
- 17 正副会長会
- 22 支部長会

編集後記

新元号「令和」となつて早三か月。H（平成）と書き誤ることも少なくなりました。MTS HR（明治・大正・昭和・平成・令和）皆様はどの時代に思いを馳せますか。

本部の会則改正から暫くたちました。新会員のスタートは好調のようです。今後の各支部の反応が気に掛かります。

「相統制度」がこの7月から変わりました。私たちの世代は学んでおく必要がありそうです。

「SDGs（持続可能な開発目標）」「ダイバーシティ（多様性）」等、次々と横文字が出てきます。苦手でも、将来を考えと避けてばかりはいられません。

教育の「不易と流行」。時代を反映すれば、どうなるのでしょうか。

まさに、生涯学習です。

（榎本 勉）